



河野揚彦

下

へ利
2.093
C34



門へ利13
號 2.093
卷 3



西山物語

五海の巻

ほのかびとさうの文どやさうもして七帝親
子ぶまよもやう。おぼあめがひことやぞ。ま
くちちまなりして係氏おぼあめがひことやぞ。ま
けひい。そがうよまうく管のうほらう
まええたまふ。あまのうたらの。おぼ
よ詰うけひいおぼあめがひことやぞ。ま
しん詰ひいおぼあめがひことやぞ。ま



かせて。けいひやまで。もまた。あさきく。れ
こしたまひき。はくし。や。た。な。も。や。ま。は
な。れ。お。も。じ。い。ま。じ。ら。あ。か。は。み。母
も。ち。あ。も。け。い。れ。と。う。は。れ。く。い。ま。の。ひ
あ。ま。あ。の。て。あ。い。あ。さ。た。い。は。あ。ら。
ち。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
か。あ。あ。い。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
く。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

き。い。な。な。け。た。ま。ひ。と。お。の。れ。も。た。の。あ
て。あ。あ。あ。あ。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
れ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

ともかたむねびそのまじりてねごられ
 おほむねびいりまよもあささうごんやう
 またうひけいあまつじとて志を退退めぬ退
 てよいかよ。湯何とて扱扱てよめ葉葉ひてか
 こまつひ置置てあや。湯かむひら和名今云やう
 のあまも。あつた子孫いあそなたあを
 出出。あつたあみさせ。あつたあせ万般
 出出。あつたあみさせ。あつたあせ万般
 て。あつたあみさせ。あつたあせ万般
 領中領中

領中の上代女の
 冠あ今の婦

あつたあみさせ。あつたあせ万般
 出出。あつたあみさせ。あつたあせ万般
 て。あつたあみさせ。あつたあせ万般
 領中領中

よとあひひく。これわざはたらくおてさむ
 らひーが。いまはひのひのほろもいに
 紀日本たもろくけき種と母古もゆめ
 まくせで。はほごあらしなすはらな。み我
 ひ枚だるめころもわゆるさしやまよく。
 かはほおまよよまじ家衣。くろおんま
 う器つやのあまも。ころぐまーおけり。
 さて申との初とまらまはま。まらけれと
 何とひく。公許あがるおまはら。――

さふくももいなのまて。とたびにせまてけ
 子がれりて。えんたまおーと那ありのゆ
 ひそしよあまも。か子もろ縁がころ原
 きをとおーとろぐみ祝て。無片け氣と
 後らる。さてまのなまあて。まもい
 さだめく。まらしひく。まらとれたるま
 へんせまはし。あまらつ。ま今よみ置
 たか。さしえて。かかいたるま。まら
 ようとさて。みるま。れハ。原のゆり
 五あめく

色うらぶここの業あるよたものゆゑも
いづれうあこいさえてはあんだま

ら何ぞと母はくくして又てはみごとお
こひじらこいなるあむでささうて。

りとも母よおられてはまはあの方と
いづれのものねをわたのまじ

とあきうけく。老おいのくこことまはさぐねど。
秘ひもこのねをひりごと。ひよがらと。秘ひ
ぢぢのらざらこいあは。今まそは年

くおひわううと。のたまひじら

ををせめてねく。よあぐく老の身も

あしものまはよ何えまむじものどあえはらまら
と田所萬葉

かくらもんほをよはたど老のまをたう。はまを
りあのみ。その何といておはまむじえ。ハ。前も又。
あまあまハ何トとむじあはもまむ。んはまう
おぼせ。何とてははうね。れめまむ。せまひや
む。り。あ。こ。と。ま。よ。よ。お。は。ら。う。こ。と。部
詰古の人も本
てアセー。ま。よ。う。く。ら。ま。ぎ。同。ま。や。一。ほ。ま。い。と

八節おほのよねくらきつていかにほろろと
うましたまよよもこころをいそいでたもよそに
あらどがほろろいハめ^娶詰乃ほろろと
よてまごがぶじいづれのむらひめよなうつく
おもまふや。さてもよらりのまぢうらほ
だーがうて^{うそま}あめあまよせほろろと
りねこハ。あれのこごめむらめよまごせむ
とてこそほろのまつれらあごらあひよほ
いふよ中だらの人よとこえまらやせむ。

とがまよらたすよ。こころをうらなふもいとこ
がこはうたれど。今くらねもあつびそハ
さすれ^ま必ねもなまよ。あてうら物一
たよよこぞいそらたれ。こねいとあつバ。い
くこころのたまよも。まうこたけまらまら
よ。おらたよ。こころをうらなふも。あ
くこころをいそらら。のたまよ。こ
こころをいそらら。あつびも。あつびも。あ
あかしくこのまよ。あつびも。あつびも。

くけひたり。なごふことなるあまの。おいて
父の血もろりとも。ぬくはまのしほる。ま
う(か)羅うけたまふじま。まのそへひまを
えこそ。けけいもまて。福ともさ
て。なげけしたまふ。ふ。ま。は。ま。い。な。ま。
い。ら。く。ま。ご。ま。父母のまもさひ。ま。い。な。ま。
う。ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
う。ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ひ。ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。

ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
と。ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。
ま。い。な。ま。の。ま。ま。い。な。ま。

とらふなやとやと。とたけびまたけひなら
くぐ衣のあひひーと葉はみひきよせつ
のけさ竹取まおと。太刀とぬきそたむ
なま古事とさ記ハ高おとらて。ささ
らとハおひさささーと。そのはうとさむ
とら。さあまねととらーハ高とさみ
詰てしらく。なれがたーのこらとさ
かくとらとめとささるなる。び太口乃
くらがぶらるよ。たたら控むさひさやん

けれど。我母なるよ。なまよかろー時。
なれ。人の心さりて。ささくわつるやう。
命はなれがおとらて。まらとほむむさる
よとらひつ。こたびみささひささほとら。
熱ほ瓜を如ら如して古事記瓜の北よりぬ。た
轉ハ卦さ葉す万は押さる。けしハ高と
ららとたえのちあハヤさむとせしる
ハ高た川とあさーとさむ落はら
とらたさてなま溢ささ古事あ記ち志

西下

九

むーいつてすらく。さてまたいふなりける
 るよ。け八音を鬼と邪おぼへばはらそ。
 けいのもねおぼへりつめ。たがりからた
 とをたれぬは。八音がやると。耳よと
 とめて。すがいしりも。ふみやまをばけと
 よ。いやうに韻義とけしはあらむ。かまり
 むくは。しうんがあらひなる。ことさら
 てあよ。一とびぬのむらじやうとさうの
 ぐれむらじやうとさう。母名と

親と。あまのまゝくせむとありひのはさよ。
 けりなくゆウからカト者者のりよの金やう
 よそこや韻義があらひ。うらなうせむ
 らま。はめととの相考をか考ぐり
 いをき。けいひおほふよかひ。いを
 とねか。うらふ。金あらむ。いさなれく
 くら。いづれ。うら。の命はまらなり。
 らんや。あはくしんれあはひとあ
 ぐえつねども。かほくしよ。いさなれ

何れそとあるもあつひーかぞ。せふな
 かりし祝部新神まきやれこばと。ゆのねぐさ
 人も何ぶび。あつ神志愚者新なうと。のこ
 ころねむもおりなうとねひいて。まふこ
 ころあつまひて。けはくまもかろこあ
斯やうこと。ハ。物なぞあふ人も何れね。よ
兼いふよ。母がみ見石とハうと。もたうとて
 じ。あうそけとあつとあつ。あつあつと
 かねもろろよ。まふまふ。けふけふも

今ハのまうよ。うらなうとおぼくあたま
 けむが。ありけうけうけと。声とこら
 てけう。ハ。あつあつよ。人路ふたうて。入
 てもあつあつ。あつあつ。あつあつ。あつあつ
 て。あつあつ。あつあつ。あつあつ。あつあつ
 ともひと。あつあつ。あつあつ。あつあつ。あつあつ
 と。あつあつ。あつあつ。あつあつ。あつあつ。あつあつ
 けうけう。あつあつ。あつあつ。あつあつ。あつあつ
 よ。あつあつ。あつあつ。あつあつ。あつあつ。あつあつ

のしが。てながあろまひとふはよう。機^かたま
 ひさうしる比。直^ち燈とが火桶のなうまかおと。
 おのれハ背^せもくうて。そことかとなうくまげを
 しが。よこのこなううねこと。口のそるをうま。
 兼^ありあれもなううて。可い發語
兼行局 漸くこらつさ
 て。後子海うーとんれが。うく走^はりこむ日本紀
たし相
林府うやあふれ入もむ。裳^もの裾^{すそ}も。こるうりぞも。
 けくまよひままたうー。姉^あまはらおひらうと
祝ひもさかへけり。月をまらめがらう

竹^{たけ}取^とれをたぐさ^音らと^カまううて。その後
 写^から^いは^う。あもえさ^んぐ。か^んや^う。ねい^ま家
 とぞうい。

よしの巻

かくておほやけのほねうてしものさし。さら
らげどもなりりり。

さげだぬくひのへふたひうねいひ

流るゝあのをうてしものさし
古今言箱 机梅の
御さうり言てまき

これいそのひ。母のよみなるおとて。人のたご
らひひる。さてハ前ハやぞ。守の直儀まそく
まうらしもふべく。一もふよ。宇瀬美その後を
ひもたげてまうてひつ。身ハおうげ
万應さうまた
兼とていお

乃てこへまなびなるよ。遠くおもよみらたら

紀日本まじしものうーあてられ。まこなるをてび

まてへ。けさまよ御ーおくーとこらうづな

りり。されどけちよあまのちてハ。さくかひ

いづれゆもねほく。さく。いふなるま

あもさ離れなるよ。まづうまへ。いしむ

ひうくの影のりびはらとゆのちるよ。ともか

らもとて。さあづあまのいひあまのみよくとたをけ

えとるん。あはなまあまのとこ人四たりつけ

て卯伊の部はくさうさうな。志ばな
るいづりりもめてしりりーりり。さそ縁
生ももびれた。八節八何づまへんさうまう。
宇須美ハたごさうねく何なうりー。
りつれとねこりり何何さく。奥座かくしさ
万いしけら日本紀一神のしりりけとさそまう。
さそなふ人乃法乃名と。そのほしけの流
ひねうまかりけ。おたま花とたてまうりあ
とまう。へいし何もさく。ち活まされ。

万さうらよみらままれ。兼おはむいふまうていひ
と何とらまのうてねとやむい。さそまひ
とそむ秘がいとねとぞたさる。おまうね
とさうら古今集中をさうくおまうさね。
兼おのほりう声とおまうさく。とら活きて。
おのまもさう。さそまひ何さうらさ
しりり吹風も。万秋おのさそむり竹や風のまの
兼かそけいひひまののま。さそまひ
からいお何いねさう。ほのおりてハかさこ
らさぬも。まのまやあひおさく。それと
さそぬ花ごのほさうらびりてたさま。あ

世も又けり一なるゆゑに。ふかき雲をたぐひて。ま
 こしそむる。鞋のこまはなごもくもく。一。
二万かんが
葉たぐ
神代文のしよ
新編のしよ
あらむいふまののんや 日も夕新のよ万なれば。はくハ
 ちあひ返りて。くまのけひの清みのこまの遠
 くひさしめらも。あう一西ののまをくま
 やあからむじうご。おひららるるさくさく
 いとくはな。とをるま。海よたらあはくれ
 べし。うらわるあまのらま。うらまのせの
 帰もふかや。

そのゆゑもさみ極くうらぐけり
 けりたぐれまうぐひを帰くもいづるなりハ万
葉
 ちあひまごののけくて。そのひろまハやが
 こくぶさく帰れど。古今集よまのひくやが一日ののぶるのらみ
けり一こもをなほより
 何のこももなれば。たぐまのよあまうら
 ひういて。ひ終り日さおはせて。あまなごもふかや。
 うらくも無れるまらよひぐらあがり
 こころけりもひらう一あがりうらうらハ今
うらうらハ今
葉
古あひいらるる。なぐさ古乃り古より

田山

七

くわい極の枝とむ那花め種あ古今集よさして。あ
らうびくそおくらりらと。床のまよよとら
あそく。ばくくそとらんよさへはさしてこりれ。
一人ぞあしれ後採集あれぬたをれれとも
まよひおれ家。さそあさらのましくぬらう
まると。あそこのまよとあつりくやりきる。

あそこのゆさの極古今集
こころむらういそみそめさけ
あそもなれむ。あそまうあれみのもよ。

^十余 ころろぬらみなも。あひとゆのな
あじやよ。ころぼいして。あつをさ
の。石の隈まあそいのみやども。あうく
こころえやうて。ゆまあそいれたら二人た
つとそ。あつよはあそいむちあそよみ
たて。あそいしたてまつむとそらういれる。
さそあひとあそいむおれあそいと。あそい
あありだ。あのおとそよりひく。ああそい
あめれむ。あそいよたうあそいあうもあ。

西二

七

山崎
第廿
（海）夏もなれば。庭の草もわいてくら
なりて。日ごとく交れぬよ。そのまとな
くおがなり〜として。名をきれた夏の日にしほがむれば
おぼろそのまとなくおがなり〜
せじもぐをみへは。ほども遠く縁ハ。彼を
まひも家もみへこへたれど。あ〜し〜
ごのこのまよれば。しもあるまよるは〜
〜してせ〜いひも。せ〜いひなるにをこ〜と
ぐれの人ひひよまぶれて。原は
おぼろるもあ〜れ
が人ちりとも入えび。うらあひまうたる

古家^{ちか}北門よ。むづかきひのぼり。およ公志のよ
美うらあげり〜。づきもるをこれ。美福
の〜性。おらひもなれば。あ〜な
し。後ごもあらう。彼志り〜れ。際り〜て
〜し。のみちのひ〜も。在今のや〜
よ。なむ。おらひ。しら。家。さ〜。庭。や〜の
あ〜。さ。な。む。さ。た。み。あ。げ。〜。ち。ひ。さ。き
い。〜。も。し。〜。な。〜。ぐ。〜。た。〜。る。〜。か。の。母。の。い。〜。は
〜。い。〜。と。〜。い。〜。あ。〜。ま。〜。〜。ち。〜。し。〜。〜。の。〜。い。〜。と

よ。ま。こ。う。一。人。ご。ち。ち。出。て。ま。く。束。を。う。り。を
せ。め。く。起。^{あ。い。い}。何。が。う。つ。ま。め。や。う。な。る。火。か。き
照。り。く。交。ぬ。燈。る。ど。よ。じ。よ。秋。ご。と。の
お。り。ひ。ら。る。の。し。も。む。じ。う。り。お。ほ。う。り。死。
ま。て。寐。ら。れ。ぬ。ま。う。う。

秋。乃。束。の。何。が。る。も。ま。づ。は。啼。く。虫。ハ
秋。ご。と。ぬ。や。う。お。り。あ。る。く。ま。う。古今集
こ。よ。い。け。は。お。り。ひ。出。つ。た。ご。な。み。の
な。が。ら。ふ。よ。山。ほ。ひ。を。巻。よ。う。ひ。を。あ。む。む。て。お。

り。ひ。つ。奥。座。を。え。れ。ハ。虫。な。と。の。一。け。じ。こ
何。一。あ。る。こ。ら。う。ま。ま。く。ほ。た。り。尾。に。ら。も。い
い。ま。い。何。を。ま。ま。く。ゆ。た。か。の。あ。る。よ。火。を。お。お。り
て。古。事。内。何。一。と。無。し。提。婆。お。と。ら。み。あ。ま。を
と。こ。ら。う。ま。づ。う。よ。よ。み。の。き。は。は。さ。て。さ。う
乃。道。よ。ハ。ま。ま。く。ゆ。た。か。乃。相。な。一。て。ま
る。よ。と。こ。ら。う。海。に。お。神。の。む。し。め。の。万。龍。女
た。ま。ひ。一。お。ま。う。う。て。提。婆。又。か。こ。ら。う
な。が。ら。う。く。な。る。よ。山。ほ。ひ。を。巻。よ。う。ひ。を。あ。む。む。て。

まつかけじともまれど火にさまのしめしを
 よこつあ声ひささるんれば白き衣こゝろを身に
 ひさましらひたるよめれがらの髪かみのそ
 くしてらあまゆめたうまのたまたま
 そやいとあまひいあまきれまれの
 あくもぬゆまをせたまるはうとて古今集
もとこゝろよみ
ひのころよみ
せむせむせむせむせむ
 とらげにるをえさるるうりうつなはくこる
 くのりうく。何れをよみの世古語にあたるひ

おりひまをひき家ほるま。こゝろのしめし
 たるはあまひう那まづひほどひいらこ
 みやはたまひつる。あまのこゝろの
 よさればよ今ほくさるま。けがらひ
 のおほくして人のたよりとてひはると
 らうなれど。のほよぬらうま。あま
 ぞ。さぶとらひ。あまのこゝろの
 つるこゝろゆれど。あまのこゝろの
 て。あまのこゝろゆれど。あまのこゝろの

てうまじき心。口はなりのらるせ。寂り。ひのしひ
とさして何ゆも歌ハかなう。ん。ま。ま
くじよ。い。あ。な。ひ。し。ら。ま。ま。と。ぬ。ま。て。我
と。出。ひ。ら。な。ひ。の。ち。ど。ま。ま。い。一。海。ま。な。ら。と
お。ほ。え。一。が。い。し。の。ま。り。の。國。よ。出。ら。る。と。て
その心のおそ。う。し。ま。よ。ま。か。さ。り。ま。ま。し。
身。ハ。ま。ま。も。や。と。て。お。の。ま。ら。ま。あ。一
く。ひ。の。ま。あ。り。又。ま。も。や。と。て。ま。ま。あ。よ
と。ら。し。ま。ま。あ。の。時。も。ら。り。あ。る。ハ。又

け。一。ぬ。鬼。ま。ま。の。り。て。い。ま。ま。く。ま。と
またく。ま。ま。い。し。の。心。の。時。あ。り。ま。ま。し。
又。話。よ。か。り。て。ま。ま。の。垂。水。と。ま。ま。ま。ま。
よ。植。ま。み。た。ま。ま。の。れ。つ。ま。ま。の。林。と。半。馬。の。面。
り。の。魂。ま。ま。の。もの。紀。日本。の。ま。ま。の。ま。ま。と。あ。げ
て。出。ま。ま。せ。び。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。と
せ。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
げ。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

こゝろとつらふに。はなせし。はなせし。はなせし。
まよふ人。はなせし。はなせし。はなせし。
へらるる。はなせし。はなせし。はなせし。
のど。はなせし。はなせし。はなせし。
てうけ。はなせし。はなせし。はなせし。
よこがれ。はなせし。はなせし。はなせし。
ひり。はなせし。はなせし。はなせし。
あり。はなせし。はなせし。はなせし。
うじ。はなせし。はなせし。はなせし。

いつと。はなせし。はなせし。はなせし。
身と。はなせし。はなせし。はなせし。
それ。はなせし。はなせし。はなせし。
いつと。はなせし。はなせし。はなせし。
と。はなせし。はなせし。はなせし。
う。はなせし。はなせし。はなせし。
お。はなせし。はなせし。はなせし。
つ。はなせし。はなせし。はなせし。
あ。はなせし。はなせし。はなせし。

百十一

百

あゝい由軍よそもまゝいそむ。影りへはるお
そふしはまは海におぼぞ。いひはもなまはま
まぬ人見まへハいもももるなり。いひえま
むとらあま。又おほく。さうつなく。まゝとこ
るよつけて。痛く。遊あそく。ばじ今まえまは
せ。とこ。見まらさびおまらさじ。たゝん
まのうらまをも。まゝ。とこおぼし。めま
そのあらるぞよれむ久乃由軍なり。た
くふの海の中まむらも。まゝにじ

ごらよハけりがうひつ。カにさきなりけりけりかひつてゐるら
葉めし人こそまゝとれ移りまゝらむ
れらろよそひなむむ。うらまをく。まゝとめく
しとおぼさ。あまらのさまらまひく
たまふは。又あつたのさとらだらなまよ
とれハ。後よりまべきたよりなし。さああぞ
なうまはれさうれと。あつたのさかくまひ
らうま。まゝとれ大玉。乃けをまわして。まゝと
乃つひ泉下の使ののまゝとらよまゝあ声はらう。葉
今ハうがま。いひのまゝと人まゝとせ

古人と麻
詰せて

て古人の麻詰せて。なまの待たまを。すのひいあそち
 ぎひしまつひと。まこくくはらては
 とられば。ひのやうなむじまえろせ
 けろ。こはげろよけぞ。おそろしれまはな
 ぞろるなま。秋阿くひく万伴とまひせむ。
 やよや古今集まをせえや。よむひくけし
 うひとららる。えんころぬらあなまもこは
 なえにまふ。いと物ふりし。はとよつて
 神たのそとふま。そへはなろりかと思

とおりんご。花のまへーろし。いそいそ
 さのたらまをうて。かをたくれともあも
 くれ福む。ひとらつてふーらると
 なり。万葉のちひはらうりうり。葉のそと
 葉のそとられもよもふれ福。

五十二

ほつもの巻

おほつりへありひらるやう。我れら
 るとどれ。ありはしきせしめまの
 高がころのはるぎと。んがよか
 がくころせたるなり。いせの親
 よつあるころあうよおころし
 太刀あやせよみやまた。ころみ
 るいとならしきもじうひが。我
 てはあが根と。八高よはくひせは

ころあうおろ ^五わりのいれど。母のえ
 とあしを。なうくうけひとのあまたと。ひそ
 うよんこ高のむじうひてなむ。あうくありひ
 たらぬるいはむ。あづのころあう
 まうかこちるぞう。はしるあなはあうれとぞ
 いゆるる。せしあられとあして。そのうしてハ
 こころい。あうのあはれとあひら
 りしてはあう。あはれとあう。あ
 そのハあはれとあう。あはれとあ

四十一

三十一

己らうらうら。昔よりうづ八節よあけて。
 何のより堪ざりうらみもむくひびと
 いふ。親をあひじや家なれざればあほ
 やけうら。なぞをやそれうらみのいふを
 りて。天が下れ道とやがむとやとをくれ
 ばどくといふとあひひらうらうら。
 さそかられたる後古語何うられたるはな
 と。こころものまほ丈夫とものほまひらるが
 こと。せき所がかられしうらうら四方よとやあ八表

よここえはれらき。さそ八節ハこうのちひ
 らとあひく。なとをうて親をたぬ。いよよ
 人乃お墓は万葉ふ八あ万とたみ孫とら
 へあめ。そがうらあ飢。うらうらのあは。
 うあと何の人布と何人だめ。なまは
 のうとまうらる。はぬまや。宇須美やま
 とさたらうらうら。さうらうらうらうら
 へし。又はうめ孫とよらうらるひらの
 八節うらうらうら。さそえけるハ志うら

乃麻よし何なるもむなるしと。てし所親
 子あもこもえりれ。さしてはさだまはれ
 宿^世世^世世^世なるもきるものなるし。さも
 三^三でうらみつるも乃らやといとて。ま
 どもらひひのぞくならうまらう。されど
 てし所がかられたなりしを。終^{つひ}まはれ
 足のごとくならうしとぞ。西ひし北^北に
 乃國の字すもう。りれ家のものよせむ。れ
 おりし人よせむと。いふもなせ。奉^奉とのほせ。

てむ久たもひしとぞ。てし所かひしけ
 ひうがうしかぞ。きうとを母とや。けしひま
 なきを科よとて。さうとらまのあすより。こ
 がのちろし。みスカサはあまで。よれはと
 りて。おくらたむびし。ほむも。今ハはむび
 なる。いふひんし。め人とならうて。そのま
 ま。ごも。ごも。ごも。けくとも。みさうえ。けし
 とうや。こハ牛つ代も。けうし。るよ。あそ。人
 の。けし。は。き。ぬ。ぬ。

西上

七

凌岱先生著

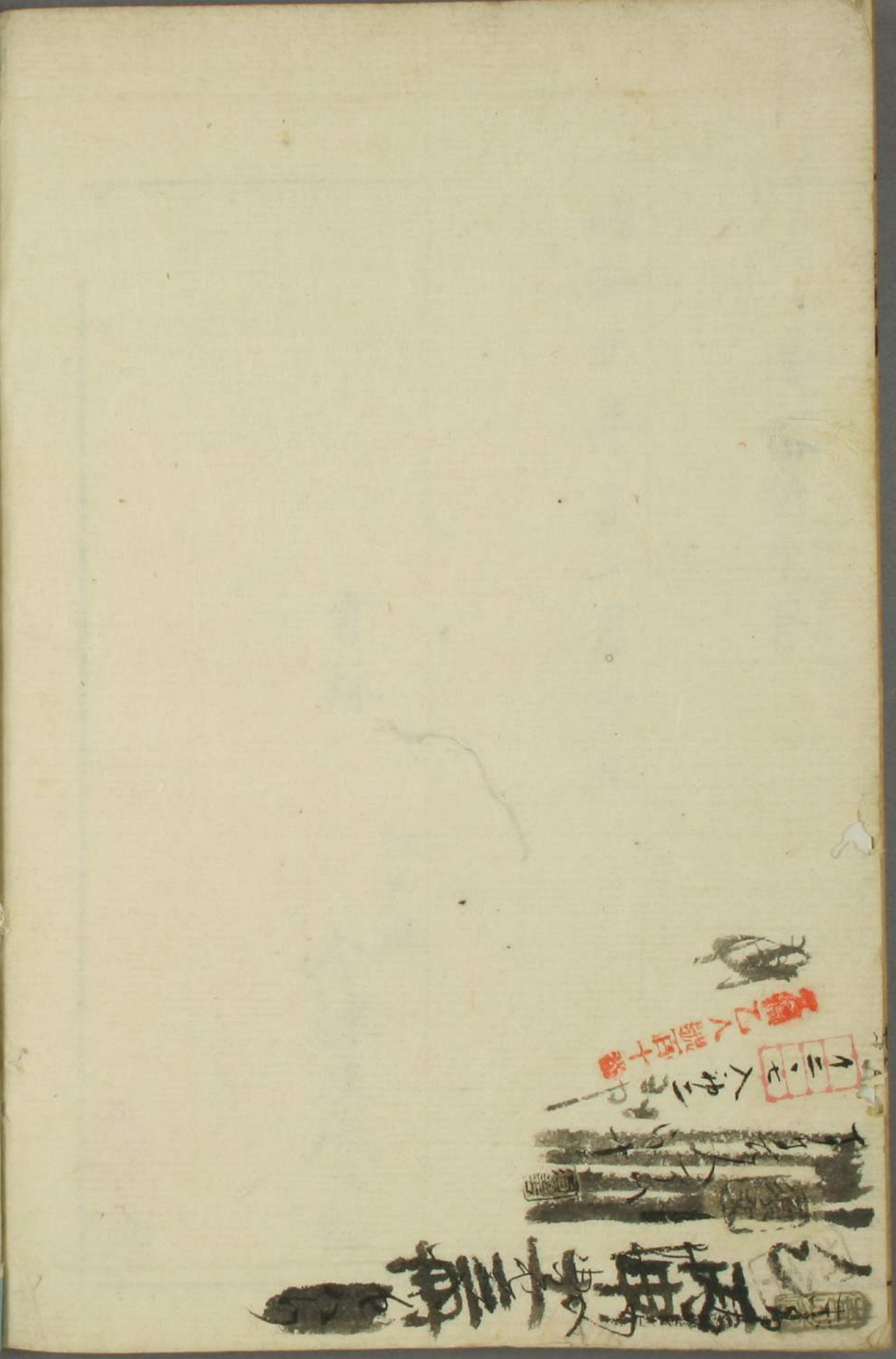
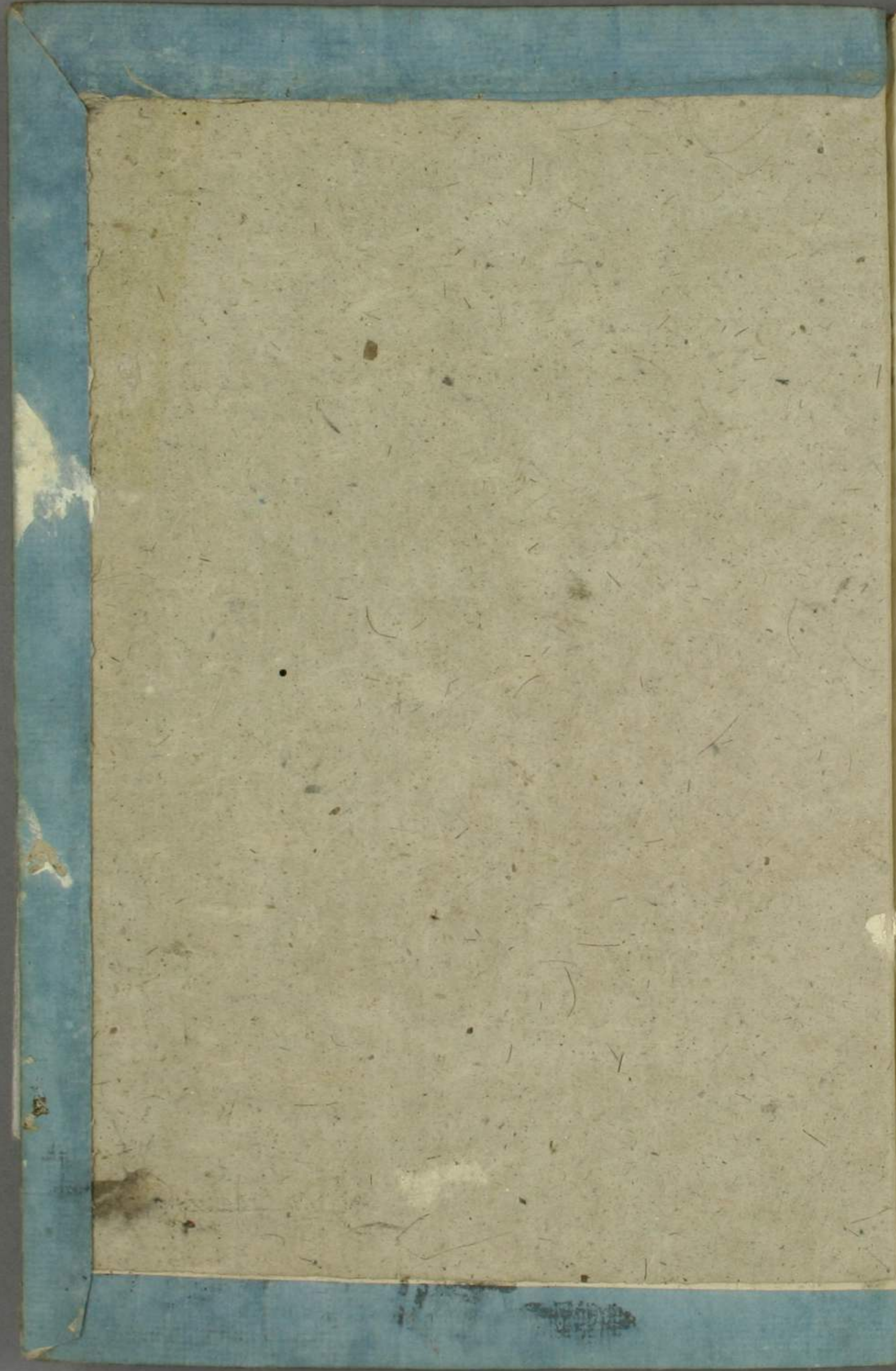
明和五年子二月吉且

書林

江戸堀

今津屋辰三郎





Handwritten text in black ink, likely a title or name, written vertically.

Handwritten text in black ink, possibly a date or a signature, written vertically.

Red stamp with Chinese characters, oriented vertically.

Red stamp with the number '三二七' (327) and Chinese characters, oriented vertically.

